小学校教員の英語力を育成するための実践的研究：
Classroom English（教室英語）に焦点をあてて

鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教科・領域教育専攻 言語系（英語）コース 石濱博之研究室
中土佐町久礼小学校 教諭 坂本　和恵

１　はじめに

平成 2011 年度より、小学校において新学習指導要領が全面実施され、第５・第６学年で年間 35 単位の「外国語活動」が必修化されている。『グローバル化に対応した英語教育改革実施計画』では「社会の急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実は我が国にとって極めて重要な問題」と提言している。そして、2020 年度から、小学校ではこれまでの実践を踏まえながら、中学年からの「外国語活動」、及び、高学年では「外国語の教科化」が実施予定となっている。中学年では音声に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養い、高学年では身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」に加え、積極的に「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う、ということを目標に挙げている。小学校の外国語活動では、指導計画の作成と授業は、学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が行う。授業の実施に際しては、ネイティブ・スピーカーの活用に努めるとともに地域の実態に応じて外国語に堪能な地域の人々の協力を得るなどにより、指導体制を充実することとされている。更に、小学校教員が自信を持って専科指導に当たることが可能となるよう、「免許法認定講習」開設支援等による中学校英語免許状取得の促進を提言している(文部科学省、 2015b)。

実際の現場では、教師間の不安が一層増している。その原因と考えられるのは、第５・６学年の教科化へ向けての指導・評価の在り方や小学校教師が英語（第二言語）を運用する能力に不安があるように思われる。小学校教員にとって自身の英語力を向上することは、大きな壁となっている。その上、学級担任等と ALT とのティームティーチング（TT）がうまくできていない状況も見られる。学級担任が授業の指導を ALT に任せてしまっていたり、ALT との英語での打ち合わせに困難さを感じたりする状況も少なくない。このような現状を踏まえ、小学校外国語活動やこれからの教科化に向けて活用できる小学校教師対象にした英語力向上に向けた取り組み、特に授業改善に向けた Classroom English（教室英語）を育成していく必要があると考える。

２　研究の目的

（１）小学校外国活動及び外国語科において、外国語活動を担当する教師の不安や英語使用について調査を行う。

（２）教師を対象にした Classroom English(教室英語)の育成のプログラムを作成し実施する。

（３）プログラムを実施したことで、教師の内在的な心理の不安の解消や、教師の英語力育成のための検証をする。

３　研究内容

(1)　教師の自信と不安について

文部科学省（2014）が行った小学校学級担任（外国語活動担当教員）の外国語活動に対する意識に関しての調査では、教員の 88.2%（88.4%）が「おおよそのイメージはつかめている」、91.5%（90.8%）が「児童と一緒に楽しんでいる」と回答している。一方、教員の 34.6%（38.9%）が「自信を持って指導している」60.8%（63.8%）が「準備などに負担感がある」67.3%（63.7%）が「英語が苦手である」と回答している。※上記の%数値は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の

合計である。今後の課題として、「教員の指導力」51.7%（45.1%）、「教材・教具等の開発や準備の時間」48.7%（51.4%）、「外国語活動に関する教員研修」30.4%（23.8%）、「ALT 等 の外部人材との打ち合わせの時間」29.7%（30.2%）、「小学校と中学校の連携」19.5% （17.1%）などが挙げられている。今後の課題として挙げられているこれらの項目は、教師の不安と一致していると言える。

(2) 小学校教員の英語力向上に向けての取り組みについての現状と課題

文部科学省（2013）は小学校教員の今後の課題として、 小学校高学年における英語教育の教科化に伴う指導内容の高度化・指導時間増に対応する必要がある中、現状では不足する高度な英語指導力を備えた専科教員としても指導が可能な人材の確保が急務であるとしている。

Berry(1990)、 Cullen(1994)、 Murdoch(1994)、及び山森(2012)らは、第２言語教師の目標言語に関する能力の重要性についてはこれまでも数多く指摘されてきた。しかし、教師の目標言語能力の育成はそのニーズが（教師の自信との関連）高いのにもかかわらず、教師教育において指導理論とその実践および言語理論に焦点があてられ、十分に扱われてこなかったと課題を指摘している。

(3) 自信と不安の解消方略　音読に関する研究（シャドーイング）

シャドーイングの定義として鳥飼（2003）は以下のように述べている。

表１　シャドーイングの定義

・もともと会議通訳者を目指す人のための基礎訓練の一つとして使われてきた訓練法である。
・「シャドーイング」という名称は英語の shadow（影のようにあとについていく）という動詞からきている。
・「聞こえてくる音声を、ほぼ同時あるいは少し遅らせて、できるだけ正確にくり返す」と考えるとよい。

表２　シャドーイングの定義　『聞きながら話す』

・最初は聞きながら話すという行為にとまどいを覚えるかもしれないが、しばらくすると慣れてくる。
・くり返す時の声は小さくてもかまわない。
・途中でやめずに、とにかくついていくことが大切である。
・単に聞くだけでなく、スピーチしている話者と同じスピードで話す。
・シャドーイングは「オウム返しのくり返し」とはいいながらも、その裏側で自分の持っているあらゆる知識をフルに動員して行う、高いレベルの認知的な作業である。
・英語を始めたばかりの人でも、ほとんど知っている単語で構成されている文章で音声のスピードがゆっくりした教材を選べば、くり返しは十分可能です。

◎日常生活でのシャドーイング

・相手の言っていることを心の中で復唱したり、ぶつぶつ声にだしたりしてくり返していることがある。
・小説を黙読するときなども、目で追いながら心の中で音のない声に直していること。

シャドーイングの効果は様々な研究者が述べている。シャドーイングはゆっくりのスピードから始めることができ、聞きながら話していくということに徐々に慣れていくことができ、シャドーイングの仕方を間違わなければ、一石二鳥の学習方法であると言える。

(4) 教室英語とは

クラスルームイングリッシュ（教室英語）とは、英語活動で扱う英語のほかに、あいさつや簡単な指示など、教室で日常的に使われる英語のことである。英語教育において、教師と子どもの間で英語でコミュニケーションを図っていくということは極めて重要である。そのためにまず必要となるのは、教師ができるだけ多くの教室英語を使用することである。

(5) 学校教育現場における教室英語についての事前意識調査結果（5 月）【資料１参照】

・高知県の１０校の小学校教員（管理職含む）８５名にアンケート調査を行った。
・質問項目は１４問で自由記述も含まれている。

●小学校外国語活動、またはこれからの教科化に向けて教室英語運用力についての不安について

表３　教室英語運営力への不安　（人数=*N*）

不安度	*N*	（%）
大変不安がある	16	(18.8)
不安がある	37	(43.5)
少し不安がある	25	(29.4)
全く不安がない	7	(8.2)

「大変不安がある」・「不安がある」が合わせて 62.3%と、教室英語運営力への不安度が高いということが明らかに分かる。「全く不安がない」8.2%の中には、英語が得意な人もいるが、英語教育に対して目をそむけている人もいた。

●不安要素（複数回答可）

表４　不安要素

不安度順位	*N*	（ %）
１．英語力	60	(70.6)
２．語彙力	53	(62.4)
３．発音	50	(58.8)
４．指導法	50	(58.8)

「英語力」「語彙力」が不安と回答する人が多く、ALT 任せではなく、担任が主になって行っていく授業の大きな不安となっていることがわかる。しかし、まだ ALT 任せで授業を行っている学校の実態もあるので、これから教師の英語力を高めていくには、実態を把握し学校全体で取り組んでいく必要がある。その他に、「ALT との打ち合わせ（英語））31.8%、「英語を話すことに抵抗がある」22.4%という結果が出た。

●教室英語を使用しての授業について

表５　授業での教室英語使用頻度

教室英語使用頻度	*N*	（ %）
全て英語で行っている	1	(1.2)
ある程度英語で行っている	27	(31.8)
あまり英語で行っていない	27	(31.8)
英語で全く行っていない	15	(17.6)
無回答	15	(17.6)

「全て英語で行っている」,「ある程度英語で行っている」という人は合わせて 33%である。約半数の 49.4%の人は十分に英語を使って授業ができていないという結果となった。これは，前途の不安要素が結果に結びついていると考える。無回答は専科・特別支援学級・管理職の教員である。

●教室英語力についての研修について

表６　教室英語の研修参加

意欲度	*N*	（ %）
おおいに参加したい	16	(18.8)
参加をしたい	47	(55.3)
あまり参加をしたくない	12	(14.1)
参加したくない	6	(7.1)

教室英語の研修に参加をしたいという回答は 74.1%と高い結果となった。不安感が高い分、研

修に参加をして英語力を高めたいという意欲につながっている。こうした回答から、今後小学校教員の英語力を高める研修を考えていく必要性がある。それらは県や市町村単位での研修で、英語が苦手な教員でも参加しやすい体制が望ましいと考える。

●あまり参加をしたくない・参加したくないと思っている人の理由（複数回答可）

表７　教室英語研修への不参加の理由順位（18 人中）

理由	*N*	（％）
１．英語が苦手である	10	(55.5)
２．人前で英語を話すことが苦手である	7	(38.8)
３．今更研修をしても仕方ない	5	(27.7)
４．研修を受けても練習をする時間がない	4	(22.2)

参加をしたくない理由として、「英語が苦手である」、「人前で英語を話すことが苦手である」が多い回答となっている。「研修を受けても練習をする時間がない」という意見は現場からの切実な意見であると受け止める。だが、「今更研修をしても仕方ない」という意見も 3 番目に多かった。そう思っている教員がいるということをふまえて、学校全体でどう取り組んでいくかということが課題となって見えてきている。

(6) 教室英語を使った教員育成のためのプログラム開発

ア　授業で使用されている教室英語の検証

(ｱ)「教室英語集」の等の書籍を参照

(ｲ)　Hi、 friends!（指導編）に掲載されている教室英語の参照【資料３参照】

(ｳ)　授業で使われている教室英語（ボイスレコーダー）【資料４参照】

イ　教室英語の CD 作成について

鳴門教育大学の Elizabeth Yoshikawa 准教授に協力をしていただき、ボイスレコーダーに録音。シャドーイングを初めて行う先生方が多いので、速さ・発音・抑揚に配慮していただいた。

ウ　教室英語冊子作成についての留意点【資料５参照】

(ｱ)　英語を話すことが苦手な人にも取り組むことができるように定型文を中心に作成した。

(ｲ)　低学年の先生も使えるような教室英語を取り入れた。

(ｳ)　学校全体で取り組むことができる（学校【教員】の実態に合わせた）教材を作ることが望ましい。

エ　運用の仕方

(ｱ)毎週木曜日の朝の５分間全教職員で CD を流しながらシャドーイングで練習を行う。（年間）

(ｲ)ALT の先生が来ている時は、模範になってもらい一緒に練習を行う。

(ｳ)１人ずつ CD を配布しているので、個人練習も行ってもらう。

a 音読教材のシャドーイング１分３０秒

教材名「英会話・ぜったい・音読【続・入門編】(CD ブック)」監修　國弘正雄　千田潤一

b 教室英語集冊子のシャドーイング約４分３０秒　全６ページ

(7)　プログラム運用に関する調査

ア　調査期間及び調査対象者

調査期間　平成２８年６月～１０月末

調査対象　高知県Ａ小学校　教職員１５名

イ　調査内容と方法

事前アンケートと期間終了後の事後アンケートで情意面の変化、調査前と調査後の授業の中での教室英語の使用頻度の変化を調査する。【資料２参照】

ウ　分析方法

(ｱ)事前と事後による質問紙で対応のあるノンパラメトリック検定を行う。

(ｲ)自由記述から見える意識や情緒面の変化と課題を考察する。

エ　調査結果

高知県 A 小学校 13 名教員による事前・事後のアンケート結果

ここでは、IBM SPSS Text Analytics for Surveys Ver.4.0.1 の対応サンプルによる Wilcoxon の符号付き順位検定を行った。

●教室英語運営力の不安について（事前質問６　事後質問６）

表８　　*N*＝人数　First=事前　Second=事後

		N	平均ランク	順位和
Second－First	負の順位	4a	3.50	14.00
	正の順位	2b	3.50	7.00
	同順位	7c		
	合計	13		

a. Second<First　b. Second>First　c. Second=First

表９　　Z=標準化された検定統計量

Second－First	
Z	－8.16b
漸近有意率(両側)	.414

有意確立の値から、*p*＝.414 なので、不安の解消は事前のアンケートと差がなく有意ではない結果となった。週一回のペースで教室英語と音読のシャドーイングを行ったが、心理的な不安を取り除くことはできなかった。このことに関しては、今後練習の在り方や、教員のモチベーション、教材の改善等について考えていく必要がある。

●教室英語使用頻度　（事前質問９　事後質問８）

表 10

		N	平均ランク	順位和
Second－First	負の順位	0a	.00	.00
	正の順位	5b	3.00	15.00
	同順位	6c		
	合計	11		

表 11

Second－First	
Z	－2.236
漸近有意率(両側)	.025

有意確立の値から、*p*＝.025 なので、事前アンケートの時よりも、事後アンケートでは教室英語の使用頻度が増えており、有意である結果となった。これは、繰り返し練習を行うことで、授業の中に教室英語を使うことができるようになってきていると思われる。また、練習をしたことで、教師自身の意識も変化をしてきた結果である。

●教室英語の研修参加　（事前質問 12　事後質問 12）

表 12

		N	平均ランク	順位和
Second－First	負の順位	1a	3.00	3.00
	正の順位	2b	1.50	3.00
	同順位	9c		
	合計	12		

表 13

Second－First	
Z	－0.00
斬近有意率（両側）	1.000

有意確立の値から、p=1.000 なので、事前と事後のアンケートから教室英語研修の参加意欲に差がなかったので、有意ではない結果となった。これは、事前と事後において、研修への参加意欲が高い結果であったからである。教室英語研修への参加意欲は高いが、このような研修があまり行われていないのが現状であり、課題とも言える。

●このプログラムの取り組みの必要性（質問 14）　度数分布

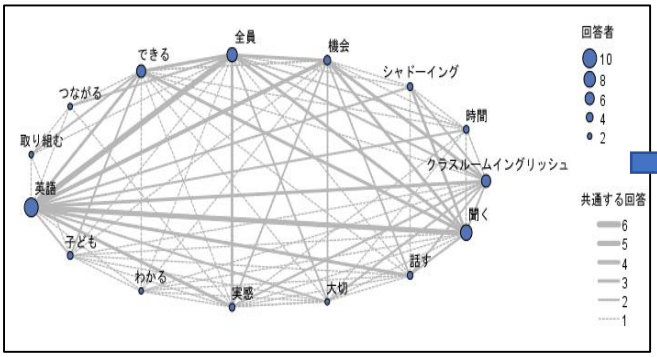
表 14　　プログラムへの取り組み意欲

意欲度	*N*	（ %）
大いにある	3	(23.1)
ある	8	(61.5)
少しある	2	(15.4)
ない	0	(0.0)

「大いにある」、「ある」と答えた人は 84.6%であった。個々に行うのではなく、全員で一斉に行ったことが意欲向上につながっていると捉える。

●自由記述　　テキストマイニング

IBM SPSS Text Analytics for Surveys Ver.4.0.1 を用いて、自由記述の感想をカテゴリー化し、その関連性の分析をした。自由記述の出現頻度上位を表示したものである。類似した項目は、統合して一つのカテゴリーとして扱っている



「英語」から「聞く」「全員」「機会」「クラスルームイングリッシユ」へ結びつきが大きい。また、「英語」「全員」「実感」という部分の結びつきも読み取ることができ、全員で取り組んだことによる結果であると考える。これは、個人で行う練習ではなく、教職員一斉で取り組んだ結果であると言える。

(8)　考察

毎週一回の教室英語の練習を行っているが、英語運営力についての不安というのは事前事後とほぼ変わらない結果となった。もっと回数を重ねていけば、授業の中で少しずつでも使えるようになったのではないだろうか。教室英語の使用頻度については、練習を行っていることで、よりたくさん使用しようと意識をするようになってきている。学級担任は特に授業中に教室英語を使うことを意識して

いることがわかった。研修の必要性については、事前も必要性の水準が高かったので、事後もあまり差がない結果となった。自由記述からは、個人で本プログラムに取り組むのではなく、教職員全員で一斉に取り組んだことがよかったという意見があった。これは、小学校の風土が影響していると考えられる。

今後の本プログラムの継続については、意欲的に取り組みたいという回答が多く得られたが、課題も見えてきた。時間や回数の問題、教職員全体で取り組む体制作り、プログラム内容の改善などが課題となってくる。

4　まとめ

小学校では、子どもたちの個々の背景や心情面を読み取りながら日々の学校教育を進めている。その基盤には学級経営があり、担任の教師を始め様々な先生が関わって築きあげている。学級基盤は教科の指導にも大きく関わっている。特に現在行われている外国語活動、またはこれからの教科化に向けては、この学級基盤があればこその授業作りとなってくるだろう。いったいコミュニケーションとはどういうことだろうか。ただ、英語で話すことができることが、コミュニケーション能力ではないと考える。これは子どもだけでなく、大人（教師）もそうである。英語教育を通して、子どもたちにどういう力を付けさせたいかということを、学校の実態や子どもの実態に合わせて考えていく必要がある。

小学校の風土として、よい協力体制を構築しやすい環境であると言える。小学校教員が協力し、英語力の向上に向けて取り組むことにより、不安を軽減していくことは可能であると考える。

本研究は、外国語教育に対しての不安を和らげることを目標にしたものである。これから来る小学校外国語教育の波に不安を抱えている教員は多く存在する。この研究が少しでもその不安の軽減につながり、外国語活動の授業を作り上げていく一助となれば幸いである。

(1)今後の課題

今後、小学校の教師向けの研修の充実が望まれる。特に、英語力や教室英語の研修が必要である。第二言語を使用しての授業に対して小学校教師にとっては大きな不安を感じている。英語教育に対する教師の不安はなくなることはないだろう。しかし、この不安を軽減していく取り組みは非常に重要である。

〈参考文献〉

Berry, R. (1990). The role of language improvement in in_service training Killing two birds with one stone. System. 18. 97-105

Cullen, R. (1994). Incorporating a language improvement component in teacher training programmes. ELT Journal, 48, 162-172

Murdoch, G. (1994). Language development provision in teacher training. ELT Journal. 48. 253-265

國弘正雄・千田潤一（2015）『英会話・ぜったい・音読　【続・入門編】（CD ブック)』東京：講談社

鳥飼玖美子[監修・著書]・玉井健・渋谷泰正・田中深雪・鶴田知佳子・西村知美（2003）『はじめてのシャドーイング』東京：学習研究社

文部科学省（2012）『Hi、 friends!1.2 指導編』巻末　東京：東京書籍

文部科学省（2014）平成 26 年度「小学校外国語活動実施状況調査」の結果について http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1362148.htm

文部科学省（2015a）『中央教育審議会諮問（平成２６年７月２９日）に関する説明概要』 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/052/siryo/__icsFiles/afieldfile/2014/12/15/1354014_2.pdf

山森直人（2012）「小学校外国語活動における教師の教室英語に関する理論的考『JASTEC 研究紀要』31 号 pp.41-63

資料１

事前アンケート

小学校外国語活動における教室英語（Classroom English）についての調査

※ここでの教室英語とは外国語活動の中で教師が児童に指示・賞賛・模範等、英語で発言している言語と捉えてください。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿小学校

質問１．年齢　【　　】20～29 歳　【　　】30～39 歳
【　　】40～49 歳　【　　】50 歳～

質問２．現在の担当学年　【　　】低学年　【　　】中学年　【　　】高学年
【　　】特別支援　【　　】専科　【　　】管理職

質問３．教職経験年数【　　】年（講師期間も含む）

質問４．小学校外国語活動を指導した経験年数【　　】年
※０と答えた方も続けてご回答ください。

質問５．英語の資格（英検等）があればお書きください。
【　　】特になし　英検【　　】級　TOEIC【　　】点
その他【　　】

質問６．小学校外国語活動、またはこれからの教科化に向けて教室英語運用力について不安はありますか。
【　　】大変不安がある　【　　】不安がある
【　　】少し不安がある　【　　】全く不安がない→**質問９へ**

質問７．指導法についての不安はありますか。
【　　】大変不安がある　【　　】不安がある
【　　】少し不安がある　【　　】全く不安がない→**質問９へ**

質問８．どんなことが不安ですか。※複数回答可
【　　】指導法　【　　】評価　【　　】授業構成
【　　】英語力について　【　　】発音【　　】文法　【　　】語彙力
【　　】異文化理解
【　　】ＡＬＴとの打ち合わせについて（英語で）
【　　】英語を話すことに抵抗がある。
【　　】英語学習（教室英語含む）の練習の仕方がわからない
その他[　　]

裏面もお願いいたします。

質問９．　教室英語（Classroom English）を使って授業を行っていますか。

【　　】全て英語で行っている→**質問 11 へ**

【　　】ある程度英語で行っている→**質問 10 へ**

【　　】あまり英語で行っていない→**質問 10 へ**

【　　】英語で全く行っていない→**質問 11 へ**

質問 10．どんな場面で教室英語を使用していますか？

［　　］

質問 11．指導者が教室英語を使うことで児童の活動の幅が広がると思いますか。

【　　】そう思う　【　　】やや思う

【　　】あまり思わない　【　　】思わない

質問 12．(1)教室英語力についての研修があれば参加をして、英語力を高めたいと思いますか。

【　　】おおいに参加したい　　【　　】参加をしたい

【　　】あまり参加したくない→**質問１３へ**【　　】参加したくない→**質問１３へ**

(2)教室英語以外の外国語活動の研修に参加したいですか。

【　　】参加したい　　【　　】参加したくない

※参加したいと答えた人はどんな研修ですか。

［　　］

質問 13．　どういう理由で、あまり参加したくない・参加したくないと思っていますか。

※複数回答可

【　　】英語が苦手である　【　　】人前で英語を話すのが苦手である

【　　】教室英語は必要でないと思う

【　　】今更研修をしても仕方ない　【　　】英語の練習をしたくない

【　　】研修を受けても練習をする時間がない

質問 14．教室英語や外国語活動について意見や考えをお書きください。

年度初めのお忙しい時期にアンケートのご協力ありがとうございました。

お忙しい毎日だと思いますが、お身体にはお気をつけくださいませ。

鳴門教育大学院　　坂本　和恵

資料２

事後アンケート

小学校外国語活動における教室英語（Classroom English）についての調査（事後）

※事前にしていただいたアンケートと今回のアンケートで調査の分析を行います。確実性のある分析を行いたいので、名前の記入をお願いいたします。分析結果の際、個人の特定は絶対いたしませんのでご協力をよろしくお願いいたします。

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

質問１．年齢　【　　】20～29 歳　【　　】30～39 歳
【　　】40～49 歳　【　　】50 歳～

質問２．現在の担当学年　【　　】低学年　【　　】中学年　【　　】高学年
【　　】特別支援　【　　】専科　【　　】管理職

質問３．教職経験年数【　　】年（講師期間も含む）

質問４．小学校外国語活動を指導した経験年数【　　】年
※０と答えた方も続けてご回答ください。

質問５．英語の資格（英検等）があればお書きください。
【　　】特になし　英検【　　】級　TOEIC【　　】点
その他【　　】

質問６．教室英語プログラムを実施して、これからの教室英語運用力について不安はありますか。
【　　】大変不安がある　【　　】不安がある

質問７．どんなことが不安ですか。※複数回答可
【　　】クラスルームの使用について
【　　】英語力について　【　　】発音【　　】文法　【　　】語彙力
【　　】ＡＬＴとの打ち合わせについて（英語で）
【　　】英語を話すことに抵抗がある。
【　　】英語学習（教室英語含む）の練習の仕方がわからない
その他[　　]

質問８．プログラムの教室英語（Classroom English）を使って授業を行うことができましたか。
【　　】たくさん使うことができた→**質問９へ**
【　　】ある程度使うことができた→**質問９へ**
【　　】あまり使うことができなかった→**質問 10 へ**
【　　】全く使うことができなかった→**質問 10 へ**

質問９．どんな場面で使うことができましたか。

［　　］

質問 10．あまり使うことができなかった・全く使うことができなかったのはどうしてですか？

［　　］

質問 11．指導者が教室英語を使うことで児童の活動の幅が広がると思いますか。

【　　】そう思う　【　　】やや思う

【　　】あまり思わない　【　　】思わない

質問 12．(1)教室英語力についての研修があれば参加をして、英語力を高めたいと思いますか。

【　　】おおいに参加したい　【　　】参加をしたい

【　　】あまり参加したくない→**質問１３へ**【　　】参加したくない→**質問１３へ**

質問 13．　どういう理由で、あまり参加したくない・参加したくないと思っていますか。

※複数回答可

【　　】英語が苦手である　【　　】人前で英語を話すのが苦手である

【　　】教室英語は必要でないと思う

質問 14．このプログラムは今後取り組む必要があると思いますか？

【　　】大いにある　【　　】ある

【　　】少しある　【　　】ない

質問 15．このプログラムを実施しての感想をお願いいたします。

※自分自身の変化（不安等の改善等）　全員で実施したことについて　授業の改善内容について（発音や語彙数・英語力）　その他

お忙しい時期にアンケートのご協力ありがとうございました。これから、寒くなる季節となってきました。お身体にはお気をつけくださいませ。　　鳴門教育大学院　　坂本　和恵

付録３

『Hi friends!1・2 指導編　巻末　指導者の表現例』

（あいさつ・授業の開始と終了）

Hello everyone.

How are you?

Let’s greet with your friends.

Open your textbook.

Close your textbook.

Stand up、 please.

Sit down、 please.

That’s all for today.

（ほめる・はげます）

Good.

Very good.

That’s good.

Good job.

You did a good job.

Wonderful.

Excellent.

Fantastic.

Close.

（ゲームや活動中の指示）

Nice gesture.

Clear voice.

Good luck.

That’s right.

Are you OK?

You can say it in Japanese.

Let’s play the ~ Game.

Let’s sing together.

Let’s do the chant together.

Let’s interview.

Let’s start.

Let’s listen.

Let’s ask.

Guess.

(Please) Make a pair.

Let’s make a speech.

Please listen carefully.

Listen carefully and draw lines.

Look at the textbook.

Look at the picture.

Open your textbook to page~.

Touch the picture with your finger.

Write the numbers in the squares.

Cut out the picture cards.

How do you say ~ in Japanese/ English?

Who knows the answer?

What do you think?

資料４

3・4・年生（中学年）

Very good.

Good morning.

Very sleepy.

Oh、 I see.

Look at me.

Good job.

Are you ready?

Greeting.

Perfect.

Nice. Let’s play.

○○さん please.

Me too.

Take your Hands.

Once more please.

Let’s play new words.

5・6 年生（高学年）

How are you?

I’m tired.

Sick?

Take care.

Stage menu.

Really?

Let’s play activity.

Next、 warm up?

Next stage.

OK、 demonstration.

Groups five.

Stop please.

Let’s start.

Next activity 10 minutes.

Stand up.

Are you ready?

Look at ○○.

Let’ sing.

Nice.

Perfect.

Please don’t sit down please.

Next、 let’s chant.

Listen carefully.

資料５

Classroom English

授業の始まり

Now, let's start!	さあ、授業をはじめましょう!
How are you?	調子はどう？
What is today's date?	今日は何月何日？
What day is it today?	今日は何曜日？
What is the weather like today?	今日の天気は？
Who is absent today?	今日は誰か欠席していますか？
I'm sorry I am late...	遅れてしまってごめんなさい。

指示語

Open your textbook to page 23.	教科書の２３ページを開けてください。
Look at the picture on your worksheet.	ワークシートにある写真を見てください。
Put your pencil case and plastic sheet in your desk.	筆箱と下じきを机の中に入れてください。

Put your handout on your desk.	プリントを机の上に置いてください。
Laura, come here please.	ローラここに来てください。
Come to the front, please.	前に来てください。
Listen carefully.	よく聞きましょう。
Please be quiet.	静かにしてください。
Stop talking.	話すのをやめなさい。
Please hurry up.	急いでください。
Be careful!	気を付けて!
Don't touch!	触らないで!
Repeat after me.	繰り返してください。
Let's say this word three times.	３回言いましょう。
Once more, please.	もう一度お願いします。
Please speak louder.	大きな声で話してください。
Look at the blackboard.	黒板を見てください。
Please open the window.	窓を開けてください。

活動・指示

Let's sing a song together.	一緒に歌を歌いましょう。
Let's play a game.	さあゲームを始めましょう。

Don't start yet.	まだ始めないでください。
Move your desks.	机を動かしましょう。
Bring chairs here.	いすを持ってきましょう。
Move these desks to the left.	机を左側に移動させましょう。
Make a circle.	円になりましょう。
Make groups of five.	５人グループを作りましょう。
Make six-lines.	６列にならびましょう。
Hold hands, please.	手をつなぎましょう。
Clap your hands.	手を叩きましょう。
Turn around.	ぐるっとまわりましょう。
Touch your nose.	鼻をさわりましょう。
Face your partner.	パートナーと向かい合いましょう。
Let's change partners.	パートナーをかえましょう。
Take turns.	順番にやりましょう。
Masaharu, now it is your turn.	さあ雅治、あなたの番です。
Wait a minute.	ちょっと待ってください。
Time's up. Look at me.	終わりです。前を向いてください。
Put the desks and chairs back.	机やいすを戻しましょう。
Go back to your seat.	いすに戻ってください。

確認

Are you ready?	準備はいいですか？
What's the word?	（どんな言葉か当ててほしい時）
Pardon?	（もう一度言ってほしい・おねがいしたい時）
Any questions?	質問はありませんか？
What do you think?	どう思いますか？
Miki, how about you?	みき、あなたは？
Did you understand?	わかりましたか？
（Not yet.）	いいえまだ
Who's next?	次は誰ですか？
What happened?	何かあったの？
Nobody?	（答えがわかる児童がいない時）
Anybody else?	（他の意見を児童に尋ねる時）
Please raise your hand.	（挙手をうながす時）

賞賛・励まし

Take it easy.	大丈夫。
Don't worry.	心配いらないよ。
Good luck.	がんばって。

You can do it.	やればできる。（がんばれ）
Everybody clap, please.	友達に大きな拍手を。
Good idea.	いい考えですね。
Congratulations!	
Very good!	とてもよくできた時のほめ言葉
Excellent!	
Fantastic!	
That's better!	よくなったよ！
Great!	
Well done!	よくできた時のほめ言葉
That's right!	

授業の終わり・その他

That's the bell.	ベルが鳴りました。
Time's up.	時間です。
We'll stop here today.	今日はここまでです。
This is your homework.	これは宿題です。
Have a good day.	よい一日を。
Have a good weekend.	よい週末を。
See you next week.	また来週会いましょう。

See you soon.	またね。
Goodbye, everyone.	みなさんさようなら。

That's all for today's lesson. You can do it!

See you next week. Have a nice day! Thank you!

Take care.